

有壬記念医学生研究奨励賞受賞報告

新潟地域医療学講座 井口清太郎

令和元年7月2日(火)午後7時より、新潟大学有壬記念館において有壬記念医学生研究奨励賞の授賞式が執り行われ、一昨年度、当講座において医学研究実習を行った2名の発表が同賞を受賞した。これらの研究成果は昨年6月に三重県津市で開催された第9回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会において発表されたものであり、その内容は下記の通りである。

○小林 賢人…高齢者のうつ、ソーシャルキャピタルと外出頻度の関係—魚沼市における聞き取り調査より—

○上原 優斗…雪かきは健康に良いのか？雪かきと握力、社会的役割の関係について—魚沼市における聞き取り調査より—



この研究は、医学生が魚沼市上ノ原地域に平成29年10月の4週間滞在し、同地域の高齢者一軒ずつに対面によるアンケート調査を行ったものである。内容はソーシャルキャピタルと健康に関するものであり、上述のように多岐にわたるものであった。

有壬記念医学生研究奨励賞は今年は学内から9演題が受賞することができたが、そのうち2演題が当講座に関係するものであった。小林君の発表は昨年の第9回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会の学生セッションにおいて、最優秀発表賞を受賞したものであった。この研究を通じて、地域社会全般を理解することの一助になればと考えている。

授与式の後の学士会納涼会・祝賀会では、他の発表者や、学士会名誉会員、OBとも懇談し、大いに激励され、かつ学ぶところがあったものと思われる。このような意義有る賞を受賞することができ、医学生にとっても良い経験になった。

